
遊戯王GX 幻想郷の主！？と悪魔との戦い

クロム

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王GX 幻想郷の主！？と悪魔との戦い

【Nコード】

N7795V

【作者名】

クロム

【あらすじ】

この物語はとある少年東宮^{あずまみや} 響^{ひびき}が、神様に頼まれ遊戯王GXの世界に逃げ込んだとされる冥界の悪魔から世界を守るため、東方のキアラを元にしたオリカを使い、悪魔と戦う物語です。

この物語の主人公はオリカを使い、なおかつ神様の加護でチートローであるため、基本的には負けません。それをご理解のうえお読みください。

全ての始まり

初めまして、東宮 響あすまみや ひびきといいます。

え〜っと、今僕はよく分からない所にいます。

さっきまで東方キャラを元とした、遊戯王のオリカを考えている最中だったのですが…

気が付いたら真っ白な空間のような場所に来ていました。

きよろきよろと周りを見渡していると、翼をはやした天使？が降りてきました。

「いきなり呼び出してごめんね〜、急ぎのようだったからさ〜！」

「は、はぁー…」（なんか、軽しい話し方だな…）

「で〜さっそくなんだけど〜、遊戯王GXっていうアニメは知ってる？」

「はい、確か今は変わって遊戯王ゼアルが放送されていますが…」

「知ってるなら話は早いよ。それでねえ〜君をその世界に行って世界の滅亡を止めてきてほしいんだ〜」

「えっ！？で、でも遊戯王はアニメの話じゃ…」

「そうとも言えるし、そうじゃないとも言えるね〜。ま、平行世界って言えば解りやすいかな〜」

（平行世界って…じゃあアニメの出来事が本当にある世界も存在するってことなのか…）

「でもなんで世界が滅亡するんですか？それになんで僕が…」

「そこまで言うって天使？は響の口元に指を突き立てた。

「そこ！そこなんだよね〜！実は冥界に封印したはずの悪魔の何体かが逃げ出したんだよ〜！このままだと悪魔が人間を利用して世界を滅ぼすかもしれないんだ〜。そしてやっと悪魔たちが逃げ出した場所が分かったんだ〜。で、そこが〜」

「遊戯王の世界、ですか？」

「その通りだよ。たぶん悪魔たちは人の心の闇に隠れて力をつけていると思うんだ。なんとかして対策を練ろうとした時に見つけたのが君なんだ。見させてもらったよ。君が考えたカード、もはやチートだよな。」

「はい…まあ…」

それもそのはず、響が考えたカードは東方キャラの能力を元に作っているが、それでも目茶苦茶な効果になってしまっているのだ。

「そこで君に悪魔を退治してほしいんだ。元の世界に戻るっていう選択もあるよ。命の危険もあるからねえ。」

（確かに…遊戯王の世界に行けるのは嬉しいけど、逆に悪魔たちと命がけのデュエルを挑まなきゃいけないからな…）

「神様…悪魔は僕がいる世界も襲ってくるんですか」

「うーん…今はまだ大丈夫だけど、完全に復活したらその可能性もあるかもね。」

それを聞いた響は考えるように俯くが決心したかのように頷き、顔をあげた。

「分かりました。悪魔と戦うのは怖いけど、悪魔に怯えながら生活なんて嫌ですから…だったら僕はみんなを守るために戦います！」

「あつりがとーとー！じゃあ私が直々にプレゼントを君にあげるよ。」

そう言った神様？が手を前に伸ばすと、手から眩しい光を放ったと思えば、いつの間にか手には一つのデッキが握られていた。

「はい、どうぞ！」

「は、はい…」

デッキを受け取った響は戸惑いながらもデッキを確認してみる。

（えっ…これって…まさか！？）

響はカードを次々とカードをめくる。そう、そのデッキには、響が考えたカードが組み込まれていたからだ。

「びつくりした？そのデッキには君が考えたオリジナルカードを

入れてあるだよ」

「い、いいんですか！？これをもらっても！？」

「もっちら〜ん！悪魔たちがどんな手を使ってい来るかわつかな
いからね〜。それにさっきも言っただけ、私からのプレゼントだか
ら遠慮しないでいいよ〜」

「あ…ありがとうございます！！」（うわあ〜！まさか僕の考え
たカードが使える日が来るなんて！）

響は神様に礼をすると再びデッキのカードを確認し始めた。よっぽ
ど嬉しかったのである。

「それと、君まだ考えてる途中のカードもあると思ったから、自分
でオリジナルカードを作れる力もプレゼントしたからね〜」

「ええー！！」（ということはもつと戦略を増やせるってことか
！）

「満足した〜？」

「は、はい！」（というより、もう満足のレベルを超えていますよ！）

「よし！じゃあ君を遊戯王GXの世界に飛ばすよ〜！」

神様が手を振り上げると響の体が光に包まれる。

（あ、そうだ！）

「神様！最後に神様の名前を教えてくださいませんか！？」

しかし神様はその質問を聞くと、う〜ん、と考え込む。

「それは…大丈夫！夫！後で分かると思うから！」

「え？それってどういう…」

「精霊達によろしく〜！じゃあね〜！」

「え、精霊達って、う、うわあー！！」

そして、響の体は光で完全に包まれた…

全ての始まり（後書き）

遊戯王の小説にはまり、勢いで書いてみました。

更新は遅れるとは思いますが、がんばっていこうと思います！

次回は主人公設定とデッキ構成＋一人を紹介しようと思います。

キャラ設定＋デッキ構成

「はい、始めました！キャラ紹介のコーナーです！」

「えーと…神様、これは一体？」

「作者によると…最初にこういう設定をたてたほうがやりやすいんだって」

「は、はあ、そうなんですか…」

「では早速いってみよう！」

東宮 響（あずまみや ひびき）

年齢 15歳

所属 オシリス・レッド

見た目 エレメンタルジェレイドのクーに似ている

性格 お人好しで口調は「僕」といった優しい感じである。

昔、人間関係でトラブルがあり引き込もっていたが、転生をきっかけに自分を変えようと決心する。

少々ビビリではあるが、大切な人のためなら体をはって守る覚悟はある。

神様の加護のおかげで、身体能力が上昇し、オリカの作成、チートドロー、光の結界、（悪魔のみ）闇のゲームが行えるようになった。

デッキ 幻想郷デッキ

神名 空（かみな そら）

年齢 15歳？

所属 オシリス・レッド

見た目 テイルズオブグレイセスのパスカルに似ている

性格 神様なのだが天然で、口調は「私」で、語尾を伸ばし軽々しい口調をする。

なぜか憎めない性格をしており、ムードメーカーのような役割をしている。

しかし、神様としてのプライドは、しっかりとっており、悪魔や神を侮辱する者に対しては、普段からじゃ考えられない口調をする。響とは一応幼馴染みという設定になっているが、空は今の生活に満足らしい。

デッキ 神デッキ

「よし！じゃあ今度はデッキ構成について…」

「ちょっと待ってください！なんで神様らしき人のプロフィールが

…」

「とりあえず、いつてみようー！」

「人の話を無視しないでくださいーい！！！」

幻想郷デッキ

モンスターカード×26

大妖精×3
小悪魔×3
博麗 霊夢×1
霧雨 魔理沙×1
紅 美鈴×1
パチュリー・ノーレッジ×1
十六夜 咲夜×1
レミリア・スカーレット×1
フランドール・スカーレット×1
アリス・マーガトロイド×1
魂魄 妖夢×1
西行寺 幽々子×1
射命丸 文×1
犬走 椋×1
四季映姫 ヤマザナドウ×1
小野塚 小町×1
因幡 てゐ×1
鈴仙・優曇華院 因幡×1
八意 永琳×1
蓬莱山 輝夜×1
上白沢 慧音×1
藤原 妹紅×1
魔法カード×13
サイクロン×2
強欲な壺×1
ハリケーン×1
死者蘇生×1

天使の施し×1

大嵐×1

二重召喚×1

一族の結束×2

苦渋の選択×1

幻想郷×2

トラップカード×8

奈落の落とし穴×2

くず鉄のかかし×2

盗賊の七つ道具×1

神の宣告×1

封魔の呪印×1

血の代償×1

デッキ枚数47枚

「モンスターカードが全てがオリカって、凄いな。うまく使えるの〜これ?」

「…もういいです…はい、僕も最初思ってたんですが、やってみるとうまくできました。」

それに、これには書かれていない東方キャラもいるのでデッキは変えていくつもりですから大丈夫です」

「それにチートドロがあるからね」

「それは言っちゃ駄目ですよ。今回はオリカの説明はしないんですか?」

「うん、説明は本編ですからね。後、私のデッキも」

「名前だけでやばそうな感じですけどね…」

「では、今回はここまでにするよ〜ば〜いば〜い!」

「ではみなさん、次回会いましょう！」

入学試験！悲惨なクロノス

海馬ランド、今日はここでデュエル・アカデミアへ入学するための実技試験が行われる。

様々な試験生がデュエルしている。

響はみんなのデュエルを見ながら、自分の受験番号が呼ばれるのを緊張しながら待っていた。

「うう、緊張するなあ…」

響がこの世界に跳ばされた時、それは入学試験の一週間前だった。

この世界の響の家族は、前の世界と全く変わっていなかった。

変わったところといえば、皆デュエリストだということである。

試験前ということとデッキの調整ということでデュエルしてみたの

だが、圧勝してしまい、家族にカードについて質問攻めされた。

カードについては何とか誤魔化せたが、響自信もカードの強さと、引きの良さ驚いたのだ。

こうして試験までの日を過ごしていたのだが…

（響様、大丈夫ですか？緊張しているようですが…）

（少し緊張してるけど、大丈夫だよ妖夢）

（主様、あなたは今私達の主なのです。しっかりしてください）

（う、うん。わかったよ…妖夢）

デッキ調整の数日の間に、響は精霊が見えるようになった。

響がデッキの中で良く使うカード、「魂魄 妖夢」（こんぱく ようむ）と

「十六夜 咲夜」（いざよい さくや）である。

今はまだこの二人しか精霊化してないが、これから増えていくかもしれない。

（それにしても、やりがいが無さそうな人ばかりですね。少々ガツカリです…）

（ここにいるほとんどが響様と同じ入学生とは思えませんね）

（それは入学生達が弱いんじゃないかって、君達が強すぎるからだと思っけど…）

「ぜえー、ぜえー…何とか間に合ったー！」

響が二人の発言に呆れていると、伝説のデュエリスト、遊城 十代が駆け込んできた。

（うわあ、本物の十代さんだ！）

「君、大丈夫？水あるけど」

「あ、ああ！サンキュー！…うぐ…うぐ…ぷはー！ありがとな、俺、110番の遊城 十代、お前は？」

「僕、111番の東宮 響。響って呼んでよ」

「ああ！俺のことも、十代って呼んでくれ！」

『受験番号110番、デュエル場が上がってください』

「お！さつそくだな。じゃあ、行ってくるぜ！」

「うん。頑張れ！十代君！」

（二人とも、このデュエルはしっかりと見ておいた方がいいよ）

（響様がそこまで言うとは、相当な実力を持っているということですね）

（なら、その実力…しっかりと見させてもらいます）

「スカイスクレイパーの効果！」

自分のモンスターが自分より攻撃力の高いモンスターを攻撃した時、自分のE-HEROの攻撃力を1000Pアップする！

くらえ！スカイスクレイパーシュート！！

更に、E・HEROフレイム・ウィングマンが相手モンスターを破壊した時、相手の攻撃力分のダメージを与える！」

「マンマミーヤ！私の古代の機械巨人がー！！」

結果はアニメ通り十代が勝った。やはりあの引きの良さは凄い。

（まさかあの状態で逆転するとは…）

（あの先生、他の試験管と違って本気でしたのに…）

（ね、言っただしょ）

二人も流石にあの状態で十代が勝つとは思わなかったようだ。

「お疲れ、凄いね君のデュエル！」

「へへ！まあな！」

『受験番号111番、デュエル場が上がってください』

「お！今度はお前の番だな。頑張れよ！響！」

「う、うん！」

（有り得ないノーネ。偶然なノーネ。

私があんなドロップアウトボーイに負けるナーンテ）

「受験番号111番、よろしくお願いします！」

（気晴らしに、今度こそこのドロップアウトボーイを潰してやるノーネ）

「今からデュエルを始めるノーネ！構えるノーネ！」

「わ、分かりました！」

双方ともデュエルディスクを構える。

「「デュエル！！」」

響

LP4000

V S

クロノス LP4000

「先攻は譲るノーネ」

「はい！僕のターン、ドロー！…」

（…いつも思うけど、凄いなこの手札…）

これは手札事故と言うわけではない。逆に良すぎるのである。

響の手札にはもうクロノスを倒す手立てができているのである。

（主様、あの方に対しては手加減はいりません）

（咲夜さんの言う通りです。速攻で片付けましょう！）

（ど、どうしたの…二人とも？）

（あの者は響様をバカにするような目で見ています！）

（我等が主にそのような行為をするなど、許せません！）

主の無礼は幻想郷の無礼。誇りを傷つけられ、二人はかなりキレているのである。

（…分かった、じゃあすぐに終わらせるよ！）

（（はい！！））

「クロノス先生、このデュエル…あなたは攻撃できずに負けます！」

「何いってんだ、アイツ…」「クロノス先生相手に何言ってるんだ…」
響の言葉に周りの生徒達がざわめく。

「何を言ってるノーネ！さっさとカードを場に出すノーネ！」

（ドロップアウトボーイごときが、この私が攻撃できずに負ける！？
許さないノーネ！）

「僕は手札から、フィールド魔法、幻想郷を発動！」

更に手札から、十六夜咲夜を特殊召喚します」

十六夜咲夜 闇属性

星 4 幻想族

攻撃力 1700 守備力1500

周りが緑に囲まれた田舎町のような場所に変わり、そこにメイド服を着た銀髪の女性が現れる。

「幻想郷の効果発動!。」

このカードが場にある時、フィールドの幻想族の攻撃力・守備力を600ポイントアップすることができます。

更に、幻想郷が場にある時、幻想族モンスターが召喚、破壊された時、このカードに幻想カウンターを1つのせることができます。

十六夜咲夜は幻想族モンスター。よって幻想カウンターを1つのせます。

∴僕はこれでターンエンドです」

響 LP4000

場 十六夜 咲夜 攻撃力2300 守備力2100

フィールド魔 幻想郷（カウンター1）

手札 4枚

「なんだ、あのカード」「見たことないぞ」

周りが響のカードに驚き、またざわめく

（見たことないカードなノーネ。

しかし、あんな小娘に何ができるというノーネ）

「私のターン、ドロー！私は手札から「ストップ！」な、なんなノーネ？」

「十六夜 咲夜の効果発動！

このカードは毎ターン、相手のドローフェイズ、メインフェイズ1、バトルフェイズ、メインフェイズ2の中から1つ選び、選んだフェイズをスキップすることができます。

僕はメインフェイズ1を選択します」

「な、なんでスート！？」

メインフェイズ1がスキップされ、場にモンスターがないのでメインフェイズ2に移行する。

「くつ、ならば私は、手札から魔法カード、手札抹殺を発動！

互いのプレイヤーは手札を捨て、デッキから捨てた枚数だけカードをドローするノーネ！

私は5枚捨て、5枚ドローするノーネ！」

「僕は4枚捨て、4枚ドローします。」

「更に手札から、魔法カード使者蘇生を発動！

墓地の、古代の歯車を特殊召喚！更に、古代の歯車が自分の場にあるとき、もう一枚の古代の歯車を特殊召喚するノーネ。そして、2体の古代の歯車を生け贄にして古代の機械巨人を召喚するノーネ！鉄でできた、大きな人型の機械が現れる。

古代の機械巨人 アンティーク・ギアゴレム 地属性

星 8 機械族

攻撃力 3000 守備力 3000

「墓地に捨てた大妖精の効果発動！このカードが墓地にお送られたとき、デッキから、大妖精を特殊召喚します。幻想郷の効果！幻想族を召喚したことで、幻想力ウンターを1つのせます。

更に大妖精の攻撃力・守備力を600ポイントアップ！」
羽がはえた小さな妖精が現れる。

大妖精 風属性

星 3 幻想族

攻撃力	1200	守備力	1200
-----	------	-----	------

1800	1800
------	------

「カードを1枚伏せてターンエンドなノーネ」

クロノス LP 4000

場 古代の機械巨人	攻撃力3000	守備力3000
-----------	---------	---------

伏せカード1枚

手札 1枚

「それでも、まだ私に勝つというノーネ？」

「ええ、その通りです先生！僕のターン、ドロー！」

僕は手札から、魂魄 妖夢を召喚します」

場に、刀を持ち、体の周りに霊のような物体がある銀髪の女性が現れる。

魂魄 妖夢 闇属性

星 5 幻想族

攻撃力 2400 守備力 1500

「生け贄無しで召喚でスート!?」

「フィールド魔法、幻想郷の効果! 幻想族モンスターを召喚する際、星を1つ下げることができます!」

更に妖夢の攻撃力・守備力を600ポイントアップします。

更に僕は手札から使者蘇生を発動! 墓地の大妖精を特殊召喚します! 更に、魔法カード、二重召喚を発動! このターン、僕はもう一度通常召喚できます。

手札の大妖精を召喚!

幻想郷の効果! 三体の幻想族モンスターを召喚したことで、幻想力ウンターを3つのせます。

更に、攻撃力・守備力を600ポイントアップ!

そして妖夢の効果発動! 場の自分のモンスターを生け贄にすることで、生け贄にしたモンスターの半分の攻撃力を妖夢の攻撃力に加えることができます! 僕は太妖精三体を生け贄にします!

幻想力ウンターを5までしかのせられないので、幻想郷の効果は発動しません。

攻撃力を2700ポイントアップ! よって妖夢の攻撃力は5700になります!」

(ヤバイノーネ...しかし、私には聖なるバリア・ミラーフォースがあるノーネ。

速く攻撃するノーネ)

(あの余裕...たぶんあれは攻撃反応型の罠ですね。なら...)

「僕は幻想郷の効果発動!

カウンターを全て取り除くことで、フィールドの場のカードを一枚破壊することができます!

僕は先生の伏せカードを破壊します!」

「な、なんでスート！」

クロノスの聖なるバリア・ミラーフォースが破壊される。

「バトル！魂魄 妖夢で古代の機械巨人を攻撃！迷津慈航斬！」

古代の機械巨人が妖夢の剣によって切り刻まれ、破壊される。

「があー！」

クロノス LP 4000 1300

「止めます！十六夜 咲夜で先生にダイレクトアタック！エンドレスナイフ！」

「……………」（本当に…攻撃できなかったノーネ…）

クロノス LP 1300 0

「ふう…緊張した」

「すげえな、お前！あのクロノス先生をあっさり倒すなんて！」

「あれは先攻が取れたからだよ。」

後攻だったらどうなってたか分からなかったし」

「けど君は、あのクロノス先生を宣言道理、攻撃させずに勝ったんだ。」

それだけでも凄いよ」

GXのエアーマンこと三沢 大地が現れる。

「俺は受験番号1番、三沢 大地。君達のデュエル、見させて貰ったよ。」

どちらも興味深いデュエルだった。まさかクロノス先生を倒すとはね」

「へへ！俺は遊城 十代、よろしくな！」

「僕は東宮 響、よろしく」

「よろしく。君達とデュエルするのが楽しみだ」

『受験番号112番、デュエル場に上がってください』

「はい！」

「あれ？この声どこかで…」

三沢達と握手していた響は声ができる方を向いてみると…

（え、えええ！？あ、あれって神様！？

い、いや別人の可能性も…）

てくてくてく…キョロ、ぶい！（^-^）v

（ほ、本物だああ！！）

（ま、まさーか、私がまたドロップアウトボーイに負けるなノーテ…）

「受験番号112番、お願いしま〜す！」

（ま、また気に入くないやつが出てきたノーネ！
もう怒ったノーネ、本気でいくノーネ！！）

「デュエルを開始するノーネ！構えるノーネ！」

「「デュエル！！」」

?? ? LP4000

VS

クロノス LP4000

「私の先攻、ドロー！手札から、魔法カード、融合を発動！」

手札の、古代の機械巨人を3体墓地におくり、古代の機械究極巨人を召喚するノーネ！」

古代の機械究極巨人

アンティーク・ギアアルティメットゴーレム

星 10 地属性 機械族・融合

攻撃力 4400 守備力3400

「いきなりだな、クロノス先生」

「多分、入学生に2連敗したせいでキレたんだろう」

（大人気ない人ね…）

（全くです）

（でも神様、どんなデッキ使っただろう？）

「カードを1枚伏せて、ターンエンドなノーネ！」

クロノス LP4000

場 古代の機械究極巨人 攻撃力4400 守備力3400

伏せカード 1枚

手札 1枚

「じゃあいつくよう！私のターン、ドロー！…」

先生！私、1ターンキルしちゃいます！」

「お、おい、また勝ち宣言してやがるぜ」

「今年の受験者はどーなってるんだ…」

さきほどの響のような宣言に、周りがざわめく

「攻撃力4400のカードがあるのに、このターンで決めるだど！？」

「おっもしれー！アイツどんなカードを使っただ！？」

（一体、何を考えてるんだ？神様…）

（バカな、この状況でこの私を倒すナーンテ、ハツタリに決まっているノーネ）

「私は手札から、魔法カード、天使の施しを発動しまゝす。

デッキから3枚ドローしてゝ2枚を捨てまゝす。

3枚ドロー！…手札から2枚捨てまゝす。

墓地に送った2枚のダンディライオンの効果発動！

このカードが墓地に送られた時ゝ綿毛トークンを2体召喚できまゝす。

よって、4体の綿毛トークンを守備表示で特殊召喚！」

「一気にモンスターを4体も！？」

「これなら上級モンスターを一気に召喚出来るな」

「確かに…けど一体何を出すんだろう？」

「更に、俊足のギラザウルスを特殊召喚！

このカードは召喚を特殊召喚扱いにすることが出来まゝす。

その場合、相手は墓地からモンスターを特殊召喚することが出来まゝすよゝ！」

「古代の機械巨人は特殊召喚出来ないノーネ。

だから召喚しないノーネ。」

「よし、じゃあいつくよう！私は綿毛トークン3体を生け贄にして、邪神ドレッド・ルートを召喚しよう！」

（えええええ！？邪神！？ていうことは…）

邪神ドレッド・ルート 闇属性

星 10 悪魔族

攻撃力4000 守備力4000

「ですーがそのモンスターでは私の古代の機械究極巨人には届かないノーネ」

「だから、ドレッド・ルートの効果発動！

このカードがフィールドにいるかぎり、このモンスター以外のカードの攻撃力・守備力が半減します！」

「なんでスート！？」

（ですが、私には聖なるバリア・ミラーフォースがあるノーネ。

これで今度こそ返り討ちにするノーネ）

「私はさっき、天使の施しで引いた、ワタポンを特殊召喚します。そして、手札から、魔法カード、二重召喚を発動！」

このターン、もう一度通常召喚することが出来ます！」

（やっぱり…あのデッキ、神デッキだ…）

「私は、ワタポン、俊足のキラザウルス、綿毛トークンを生け贄に、邪神アバターを召喚しよう！」

邪神アバター 闇属性

星 10 悪魔族

攻撃力 ???? 守備力????

「邪神アバターの効果発動！」

このカードの攻撃力・守備力はフィールド場の1番攻撃力の大きいモンスターの数値+100になります。

よって、邪神アバターの攻撃力・守備力は4100になります。

バトル！邪神アバターで古代の機械究極巨人を攻撃！！！」

（かかったノーネ！）

「私は罨カード、聖なるバリア・ミラーフォースを「無駄で」す！邪神アバターが召喚に成功した時、相手ターンから数えて2ターンの間、魔法・罨カードを発動できません。」

そ、そんなナノーネ……」

「バトル続行！古代の機械究極巨人を破壊します！」

クロノス LP4000 2100

「とつ止め！邪神ドレッド・ルートでダイレクトアタック！
ダークネス・ブレイバ……！」

「こ、この私が……二度だけでなく三度までも……」

クロノス LP2100 0

（ビックリした……神様も来てるなんて……でもなんでだろ？）

こうしてクロノスは真っ白に燃え尽きるも、3人対する復讐の炎を
燃え上げていた…

入学試験！悲惨なクロノス（後書き）

クロムです。

オリカについての詳しい説明はカード説明の部を作った時に書こう
と思います。

デュエルアカデミア到着！

デュエルアカデミアは3つの寮にわけられる。

中等部からの成績優秀者で占められるのが、オベリスク・ブルー。
中等部と高等部の成績優秀者で占められるのが、ラー・イエロー。
そして、成績が悪い者で占められるのが、オシリス・レッドである。
響と十代は、クロノスの陰謀でオシリス・レッドに配属されること
となったのだが…

「と、いう訳で〽同室になった神名 空で〽す！よろしく！」
「……………」

響達の部屋は十代達の隣。一緒に住まうことになったのは、響をこの世界に跳ばした張本人、神様こと神名 空である。

（主様、どうしたのですか？）

「この人、神様なんだ…」

（え！？この方が！？）

「そ〽だよ〽お二人さん？」

（見えているのですか、私たちが！？）

「私、神様だもんね…」

二人は空が神だという事実には衝撃を受けている。空の性格を考えて
そう思えないからである。

「ところで、なんで神様…いえ、空さんがこの世界に来ているんですか？」

「それがね〽。他の神達が人間だけじゃ危険じゃないのかって意見
が出でさ〽、私がこの世界に派遣されることになったんだよね…」

（この人に他にも神様っているんだ…）

「空さんはそれでよかったんですか？」

「うん！一度、人間世界に来てみたかったんだよね…」

（この方が本当に神のですか？少し信じかねますが…）

「幻想郷の神もこんな感じじゃないの？」

（…確かに…否定はできませんが…）

「ね〜。私が神ってそんなに以外？」

「（（はい。もちろんです））」

「これでもしつかりと神としての誇りはあるんだけどな〜…」

しばらく談笑していると、十代と丸藤 翔が部屋に入ってきた。

「響！お前もオシリス・レッドだったのか。これからよろしくな！」

「うん！こちらこそ。隣にいる君は？」

「ぼ、僕、丸藤 翔っていいいます。…あれ！？」

後ろにいる女の子って、クロノス先生を1ターンで倒した受験番号112番！？」

「ま〜ね〜。私、神名 空〜よろしく〜！」

「ああ！俺、遊城 十代、よろしくな！凄かったぜ、お前のデュエル！」

邪神のカード、カッコ良かったぜ！」

「ありがと〜！十代君も凄かったね〜。まさかあの状態で勝っちゃうなんて〜」

「三人とも凄いのになんでオシリス・レッドなんだろう…」

それに空さんは女の子だから普通はブルー寮に配属されるのに…」

通常、女子はブルー寮に配属される。

なので、女子である空が、レッド寮に配属されるのは異例の出来事なのである。

「でも俺は赤が好きだぜ！燃える炎、熱い血潮、俺にピッタシだ！」

「私も実際どこでもよかったしね〜」

「僕も大きな建物の中で過ごすより、こうゆうアパートみたいな所、好きだから別にいいよ」

凄い人ほど変人とはこのことである。

「羨ましいよ…みんな僕より強いし」

「そんなことないよ。君のデュエル見てたけど不意を突かれると焦っちゃうところがあるけど、カードの組み合わせや、対処の仕方もいいし、落ち着いてデュエルしていけばきつと強くなれるよ」

「そう、かな…うん、わかったよ。ありがとう！響君！」

実際、翔は強い。

この頃はまだ自信の無く、落ち着きがないが、素質は十分にある。さすがはカイザーの弟だといえる。

「そろそろ歓迎会の時間だね」

「そうだな。速く行こうぜ！」

「な、なんじゃこりゃー！」「他の寮の料理はもつと豪華だったぜー！」

オシリス・レッドの料理はご飯とメザシと味噌汁。

他の二つの料理はとても豪華で、こことはまさに天と地の差である。そこへ奥から、一人の男性が現れる。

「寮長の大徳寺だニャー。授業では錬金術を担当している。よろしくにゃ！」

おかわりは自由だからどんどん食べるにゃー」

だが、あまりの他の寮との豪華さの違いとオシリス・レッドだという不安のせいで、

みんなの喉に料理は通りそうもない。3人を除いては…

「うめえな！これ！先生おかわり！」

「お婆ちゃんの味を思い出すなあ…先生僕も！」

「こういう料理も悪くないな。私ももう一杯〜！」

「3人とも、よく食べるっすね…」

「元気がいいのはよいことだニャー。すぐに用意するニャー！」

もう一度言うが、やはり凄い奴ほど変だというのはまさに、こいつらのことである。

「で、空さん。悪魔の様子ってわかりますか？」

「うーん…調べてはいるんだけど…まだ収穫はないね…」
歓迎会の後二人は部屋に戻り、悪魔について話していた。

（空様。悪魔はどのような所に隠れるのですか？）

「可能性が高いのは…人の心の隙間かな？」

悪魔が力をつけるにはもってこいだからね。後は古ぼけた場所とかなさ〜」

（特にこの場所は、心の闇が溜まりやすそうですね。先日の先生と
いい…）

「やつかいだなあ…こりゃ…」

コンコン ガチャ

十代と翔が部屋に入ってきた。

「どうしたの二人とも、こんな遅くに？」

「それが、オベリスク・ブルーの万丈目君から、アニキにアンティ
ルールのデュエルを申し込んできたんだ」

「あれ〜？アンティルールって禁止じゃないの〜？」

（全く、ここにはそういう人しかいないんでしょうか？）

（そういう人間って、潰したくなってきましたわね…）

（二人とも、落ち着いて。ホントに潰したらだめだよ）

「十代は万丈目君とデュエルするの？」

「ああ！どんな条件だろうと、挑戦されたら受けるのが漢だろ！」

「わかった。僕も行くよ。まだ時間はある？」

「後、1時間はあるよ」

（そのくらいあれば少し話ができるな）

「翔君。部屋に懐中電灯あるかな？必要なんだけど」

「確かカバンの中にあつたと思うけど…わかった、探してくるよ！」
翔は部屋をすぐさま部屋を出て行った。

「十代君、君に話があるんだ。君、精霊が見えるだろう？」

「え！？じゃあ響も見えてるのか！？」

「うん。二人とも、出てきていいよ」

カードが光だし、妖夢と咲夜が現れる。

（十代様初めまして。私は、魂魄 妖夢）

（私は、十六夜 咲夜といえます。お見知りおきを）

「あんた達は確か、クロノス先生を倒したカード！？すっげえ！
相棒、お前もあいさつしてやれ！」

（クリクリ〜！）

十代のカードが光だし、ハネクリボーが出で来る。

（…あの…少し触ってもよろしいでしょうか？）

「え、別にいいけど」

（咲夜さん、私も！）

二人がハネクリボーをもふもふと触る。

微笑ましい光景だが、ハネクリボーは困っているようだった。

「まさか、他の精霊がいるなんて思わなかったぜ！空も精霊が見えるのか？」

「いいや〜。私は精霊が見えるだけだよ。私も自分の精霊がほし
いな〜！」

「な〜に、すぐ見つかるさ！なんか俺達って共通点が多いよな！」

「はは、そうだね。そうだ十代君！万丈目君とのデュエルの対策な
んだけど…」

「よく来たな110番。」

おや、後ろにいるのはクロノス先生を倒した111番と112番じ
やないか。

「一体何の用だ？」

デュエルアカデミア、デュエル場。

そこに万丈目とその取り巻き二人がいた。

「オベリスク・ブルーの実力がどれほどのものか、見に来ただけです」

「ふん、まあいい。遊城 十代！見せてもらおうぜ？」

クロノス教諭を倒したのがまぐれか実力か」

「ああ！望むところだぜ！」

「「デュエル」」

展開はアニメとは異なるものとなった。

万丈目が融合に対して、何か対策をしていんじゃないかを十代と話し合い、最初は融合を使わず、通常モンスターで攻めることにした。これにより流れが十代へ傾き、そして見事十代はサイクロンを引きあて、最初に万丈目が伏せたヘル・ポリマーを破壊することに成功。これには、さすがの万丈目も驚愕した。

融合が使えるようになったことで、フレイムウィングマンを召喚し一気に止めをさした。

その直後、ガードマンが近づいてきたので、皆すぐさま逃げた。

「危なかったぜ。最初に融合を使ったらどうなってたか…」

「でも、アニキ凄いや！オベリスク・ブルーの生徒に勝っちゃうなんて！」

「翔君も、がんばれば勝てるようになるよ」

「え！？いや、僕はまだまだだよ」

「いや、努力すればいつか俺を倒す日が来るかもしれないぜ？」

「アニキ…うん！僕、がんばるよ！」

「うんうん、努力は怠るなっていうしね」

「お前が言うなよ!!!」

そんな会話をしながら、4人はレッド寮に帰って行った。

(くそ!遊城十代…この借りはいつか返す!)

万丈目は十代のリベンジへ向けて、燃えていた。

デュエルアカデミア到着！（後書き）

クロムです。

十代のデュエルは省略する方針ですので、ご了承ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7795v/>

遊戯王GX 幻想郷の主！？と悪魔との戦い

2011年10月8日22時16分発行